

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 L 保木本、大石、宮島

以上3名

2 山城・ルート 八ヶ岳/中山尾根

3 交通手段 車

4 行動記録

3/3(土)赤岳山荘 06:43-06:49 美濃戸山荘 06:50-08:07 中ノ行者小屋跡 08:10-09:33 行者小屋(テント設営)10:19-阿弥陀北西稜へ向かう-13:30 撤退-14:02 テン場へ戻る

3/4(日)行者小屋05:52-中山尾根登攀-10:21 日ノ岳11:17-11:20 二十三夜峰11:24-11:33 地蔵の頭11:49-12:19行者小屋着13:09-13:45中ノ行者小屋跡13:47-14:43美濃戸山荘-赤岳山荘14:48

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

初日の3/3(土)は阿弥陀北西稜の予定であったが、まず取りつき地点を勘違いしており、アイスクライミングのトレースをたどってしまった。その後取りつき地点に向かうべく斜面をトラバースしたが、新雪が降り積もっておりところにより胸まで埋まるために引き返した。その後正規の位置から取りつきへ向かおうとしたが、こちらにも誰も入っておらず、雪が深くて断念した。結果的にこの土日に北西稜に登ったパーティーはいなかったようである。14:00 すぎにはテント場に戻り明日に備えた。

3/4(日)は予定通り

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか 発生した場合は具体的に記す 特になし

C その他、ルートに関する情報・気がついた事等

八ヶ岳のアルパインクライミングルートということで雪は少ないだろうと高をくくっていたが、初日はラッセル敗退となった。ワカンを持っていく必要があった。

中山尾根は核心部にはペツルのアンカーがしっかりと打ってあった。

写真・感想はヤマレコ参照

報告者氏名 宮島 平成30年4月3日

以下はヤマレコより転載

昨年未から計画に上がっていた阿弥陀北西稜と中山尾根に行くことに。今回は天気は快晴！木曜には雪が降っていたが晴れ女がいるようで、天気は完璧でした。赤岳山荘まで車で入れたので歩きも楽に。

初日は阿弥陀北西稜。まずは行者小屋まで行き、テントを張って戻ることに。行きに見つけたトレースを辿ることに。これが阿弥陀北西稜に取りついている先行パーティーのものだと思ったら、実は摩利支天へのトレースでした。確かに滝を登ってらっしゃる。しかたないので斜面をトラバースして取りつきに向かうも雪が深くて最悪胸まで潜る。スコップまで出したが、ワカンもないので進まない。取りつきの稜線まであと直線距離で **200m** だがこれではいつになるか分からないので、撤収。北西稜にじかに取りつくところまで戻り進むもやっぱりこちらも雪が深くて進まない。時間的にもいまから取りつきまで向かって明るうちに戻ってこれない。あきらめて敗退。しっかりと取りつきを確認しなかったこと、北西稜には先行がいると思い込んでいたのが悪かった。翌日も帰るときに確認したが、誰も北西稜には入っていなかった。

二日目にもう一度阿弥陀北西稜にアタックするか検討したが、雪が深すぎるので、当初の予定どおり中山尾根に行くことに。中山尾根はちょうど先行者の方がおりラッセルしてありがたいぶ楽に取りつきまで行けた（どうもありがとうございました）。もっともデブく歩き方も悪く自分は結構深く胸までもぐってしまいかかり疲れた。

1p 目：下部岩壁は少し右にトラバースして、残置ハーケンから登る。（正面のペツルは先行者の方がいたので）

トップは回り込んで立ち木まで行きビレイ。声が通りづらかった。そこから雪面を稜線まで登ってザイルを回収。雪稜を歩くと上部岩壁へ。

2p 目：上部岩壁。核心はIV級。体を壁から離してのっこす。まさに不動岩の砂かぶりで練習するべき。

3p 目：なんてことのない雪稜だが、下部岩壁の真上なので一応ザイルをつけて登る。登り切ったらザイル回収し、雪稜を登る。

4p 目：トポでは左を巻いてもいいと書いてあるが、左を巻くのも難しい。そこでワンポイントだが岩を乗り越すためにザイルをつける。ちなみにペツルの立派なビレイ点があるため、間違いない。意外とこのワンポイントの乗り越しも面倒。

これで終了。あとはトラバースして稜線へ。今回は登攀は **3** 時間で終わった！ちなみにずっと自分はセカンド。

帰りはもみの湯→ほうとう小作。運動したのにあれだけ食べたらまたリバウンド。

次の日は筋肉痛と膝痛でした。